

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

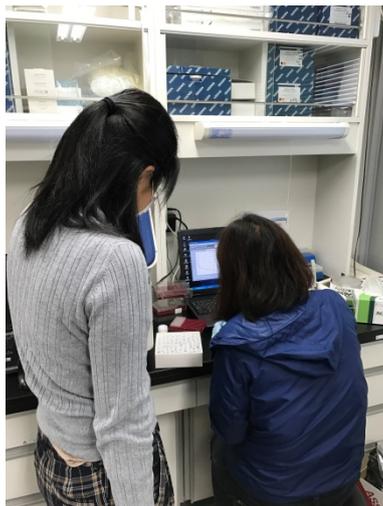
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	河本悠吾

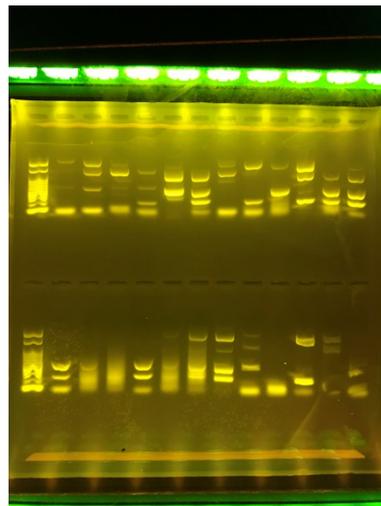
1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
霊長類研究所
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ゲノム実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 10 月 24 日 ~ 平成 28 年 10 月 18 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
木下こづえ助教、早川卓志特定助教、岸田拓士助教
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本実習では、屋久島で採集した、ヤクザル (<i>Macaca fuscata yakui</i>) のフンサンプルを用いて、性判別とホルモン測定を行った。</p> <p>以下に日程を示す。</p> <p>10/24 DNA 抽出 10/25 DNA を用いた性判別 10/26 ホルモン測定 10/27 ホルモン測定 10/28 発表</p> <p>まずはフンサンプルから DNA の抽出を行った。屋久島で採集したサンプルの中には、性別の情報がないものも多く、屋久島での発表にはデータとして使うことができなかった。今回の実験で、性別を明らかにし、使えるデータを増やせればと考えていた。DNA の抽出は今までに一度しか経験がなかったが、作業はスムーズに進んだ。しかし、抽出した DNA の濃度はかなり薄いようであった。その後電気泳動で性判別を行ったが、多くの個体で、性別が判定できない、もしくはフィールドで記録された性別とは逆の結果になった。このような結果になった原因としては、フンからの DNA の取り方に問題があった、作業中に我々の DNA が混ざってしまったことなどが考えられる。普段 DNA を用いた実験をしている私としては、このように信頼できない結果になってしまい、非常に残念だった。</p> <p>今回のホルモン測定では、テストステロン、コルチゾールという二つのホルモンについて測定した。屋久島滞在中の寄生虫の解析で得られた結果と何か関連を示せればと考えながら実験を行っていた。普段私はホルモン測定を行わないので、この実験はとても新鮮に感じた。測定もこちらの実験はうまくいったようで、少しほっとした。</p> <p>発表では、結果が信頼できない DNA からの性判別の結果ではなく、屋久島での観察で得られた結果を用いた。性別、ホルモンの結果と寄生虫解析の結果から何か示せることはないかと考えたが、うまく説明できるような結果は残念ながら得られなかった。寄生虫の観察に至るまでのプロセスや、観察法の洗練、また、フィールドで追跡する群れを絞るなどの工夫をすれば、もう少し面白い結果が得られたかもしれない。</p> <p>今回の実習では、いくつかの失敗もあったが、それも含めていい経験になった。自分がフィールドでサンプルを採集する際には、後々の実験で確実に使えるようなサンプリングをしなければならないと感じた。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



DNA 濃度測定の様子



電気泳動の結果

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援により行われました。また、本実習に際し、ご指導いただきました木下先生、早川先生、岸田先生に感謝申し上げます。